

地域おこし協力隊が着任

新たに1人の地域おこし協力隊が着任しました。
今回着任した隊員の任期は、令和8年7月から令和9年3月まで（最長3年間まで延長可能）となっています。

- 隊員 三輪 寧々花
- 前住所 帯広市
- 年齢 24歳
- 好物 卵焼き
- 活動テーマ まちづくり会社運営

■活動内容 ○まちづくり会社の企画や立案、事業推進に関すること全般
活動テーマのほかに共通業務として、①地域おこしの提案と実践②協力隊員同士の連携・協働活動③地域活動への参加および参画（自治会活動・イベント・祭りなど）④そのほか、各種まちづくり事業への参加を設定しています。

地域などの集まりには積極的に参加しますので、気軽にお声掛けください。



地域活性化起業人が着任

■訓子府町の新たな観光づくり

町では、令和8年6月から観光振興基盤形成とプロモーション支援について、2人の地域活性化起業人を受け入れています。

今回の2人は「副業型」として、それぞれの勤務先に在籍しながら定期的に訓子府町を訪れ、町民や事業者、関係団体、町職員などと連携して活動します。

■地域の魅力を見つけ、育て、伝える

観光振興基盤形成支援を担当する起業人は、関係者へのヒアリングや現地調査を行い、地域資源を掘り起こしながら、訓子府町の特性に合った観光政策の方向性を探ります。また、町民を対象とした勉強会などを通じて、観光が地域にもたらす効果や地域資源の生かし方を共有し、観光に取り組む機運を高めていきます。

プロモーション支援を担当する起業人は、農村風景や町民の姿、農業、食、地域で行われている活動などを取材し、企画から撮影、編集まで一貫して行います。町外の方に「行ってみたい」「関わってみたい」と感じてもらえる映像を制作するとともに、撮影や情報発信のノウハウを町民や事業者に還元します。

2人の専門性を生かし、日常にある地域の宝を再発見して観光へと育て、その魅力を町内外へ分かりやすく伝えることで、町民の誇りと新たな交流につながる観光づくりを進めます。

■新たに着任した地域活性化起業人の紹介

○観光振興基盤形成支援

- ・氏名 鮫島 卓
- ・所属企業 駒沢女子大学観光文化学部教授
- ・業務分野 地域資源の調査・発掘、観光政策の方向性整理、住民向け勉強会などを通じた観光地域づくり



○プロモーション支援

- ・氏名 岡田 修一郎
- ・所属企業 株式会社 LAESSE Creavia 映像制作チーム「Dougact」
- ・業務分野 観光プロモーション動画の企画、取材、撮影、編集、発信および動画制作ノウハウの共有



■問合せ 経済振興室振興係（☎ 33-5008 役場2階 窓口13番）

訓子府町移住体験制度

町では、移住を目的とした滞在を希望される方を対象に滞在期間に合わせた2つの移住体験制度を運用しています。

①訓子府町体験宿泊費補助制度

3日から7日間の滞在を希望される方に町内の宿泊施設を利用して、宿泊関連費用の2分の1の額（1泊上限4,000円）を助成します

※宿泊される前に補助決定が必要です。

②訓子府町移住体験住宅貸付制度

7日から30日間の滞在を希望される方は、家具などを備えた移住体験住宅を貸し付ける制度をご利用ください。貸付料は1日当たり2,000円（電気代、回線使用料、ガス代、水道料込み）で、灯油は使用した分を給油し返還していただきます

※利用を希望する14日以上前に申し込みをしてください。詳細については下記QRから町ホームページをご覧ください。



首都圏において訓子府町食材キッチンカーが出店

町では、町産農畜産物の認知拡大や販路拡大、関係人口の創出を目的として、令和7年5月から令和8年3月まで、首都圏でキッチンカーを活用したプロモーション事業を実施しました。

町の特産品であるタマネギを使った「タマネギたっぷり豚カルビ丼」を中心に販売し、冬季には町内の太田醸造有限会社の麴を使った「タマネギ麴スープ」も提供しました。都内のマルシェやオフィス街などに継続的に出店し、首都圏の皆さんに訓子府町の食材を味わっていただきました。

令和7年度は、ヒルズマルシェ、TOKYO TORCH Market、東京女子医科大学周辺、東京スイミングスクール、都立東綾瀬公園など、都内各地で合計98回出店しました。食体験者数は2,681人で、町産タマネギを約230kg使用しました。

また、のぼりや看板の設置、パンフレットの配布、インスタグラムでの情報発信などを通じて、推定延べ7万6,000人が来場・通行する会場で、訓子府町の名前や町産食材を発信しました。

キッチンカーによる取り組みは、単なる広告や物販にとどまらず、町産食材を実際に食べる体験を通じて、町を知ってもらえることが特徴です。ランチ需要に対応したメニューにより、マルシェの来場者だけでなく、周辺で働く人たちにも町産食材を届けることができました。

令和8年度は、出店先の確保や運営体制の強化に取り組むとともに、新メニューの開発にも力を入れます。タマネギに加え、町内の酪農から生産される牛肉や太田醸造有限会社のすずらん味噌など、活用する町内産品を広げていく予定です。

今後も、首都圏での継続的な情報発信を通じて、町産農畜産物の魅力を伝え、町を知り、応援してくれる人を増やしていきます。



この事業はサマー
ジャンボ宝くじの
収益金を活用して
実施しています。

■問合せ 経済振興室振興係（☎ 33-5008 役場2階 窓口13番）